

A工区地質記載シート

A3-請負-計測工(地質)-090224

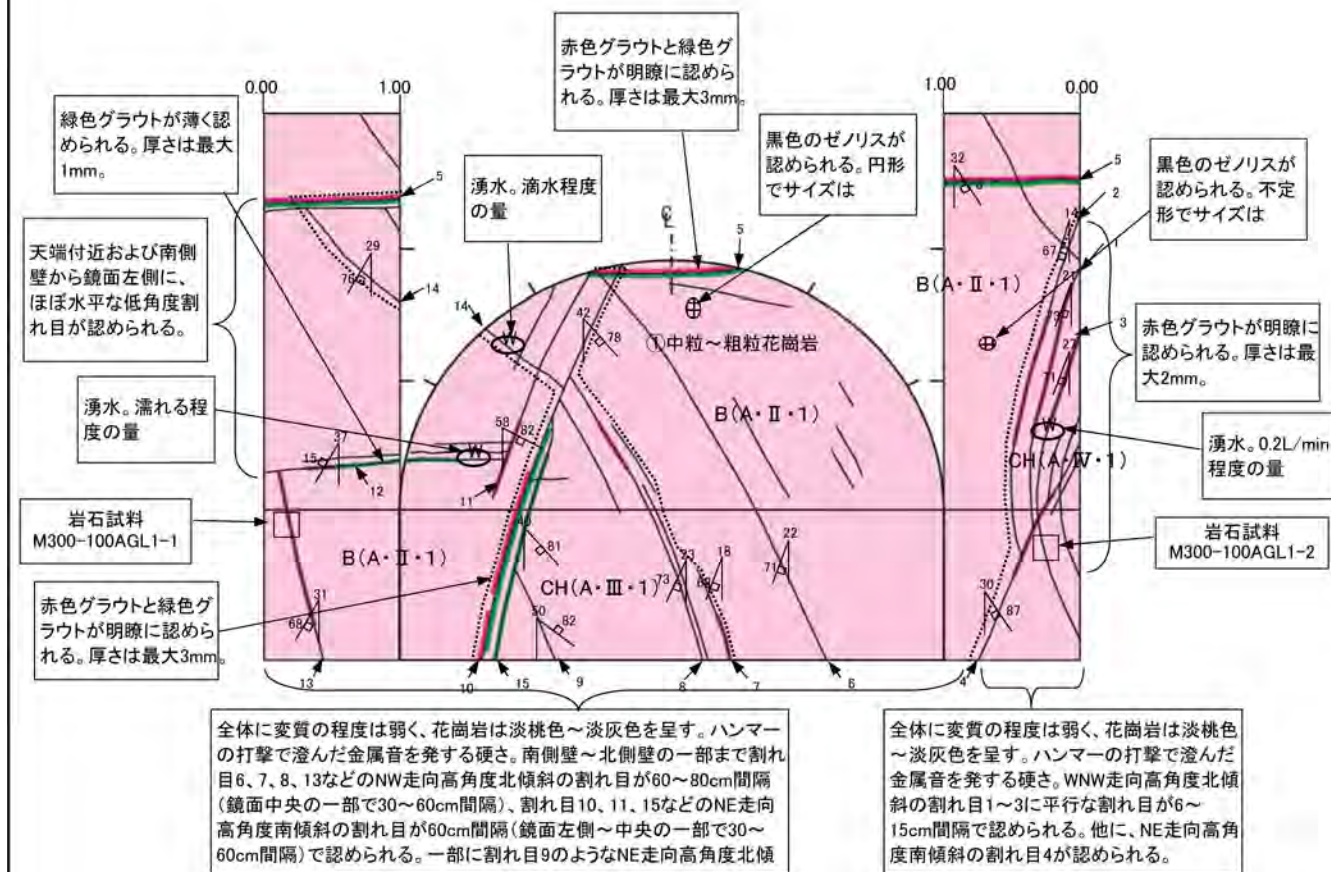
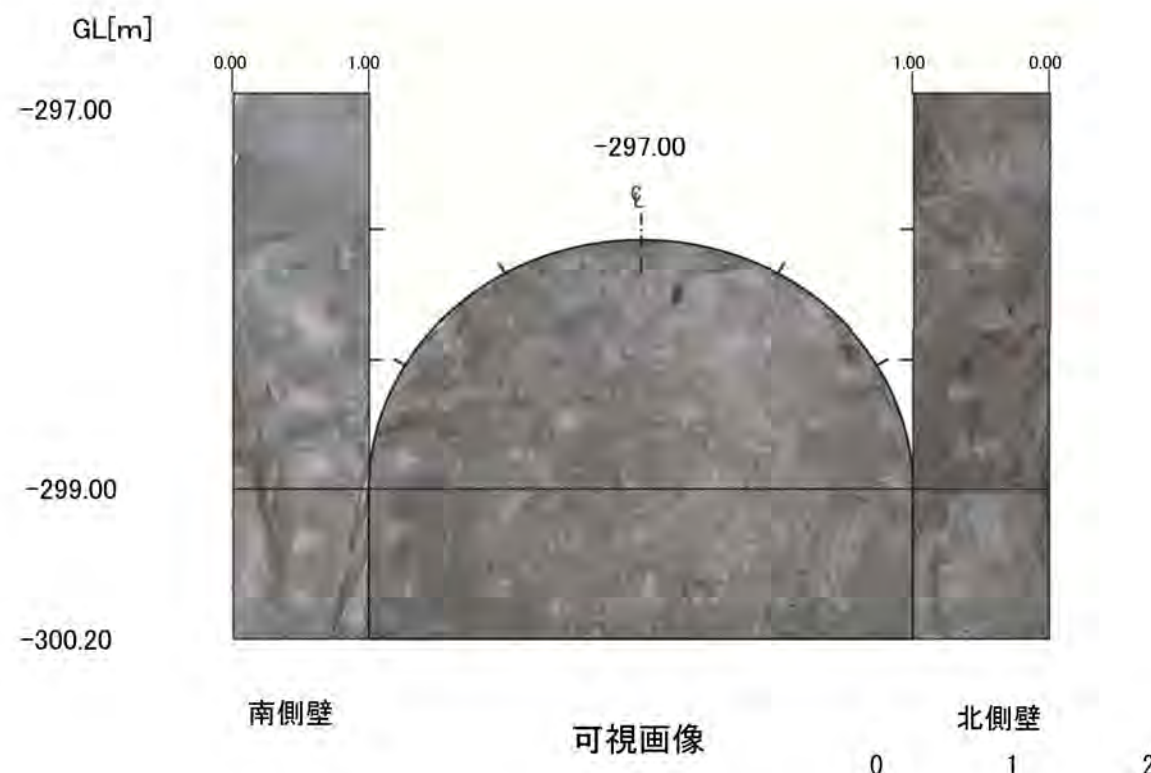
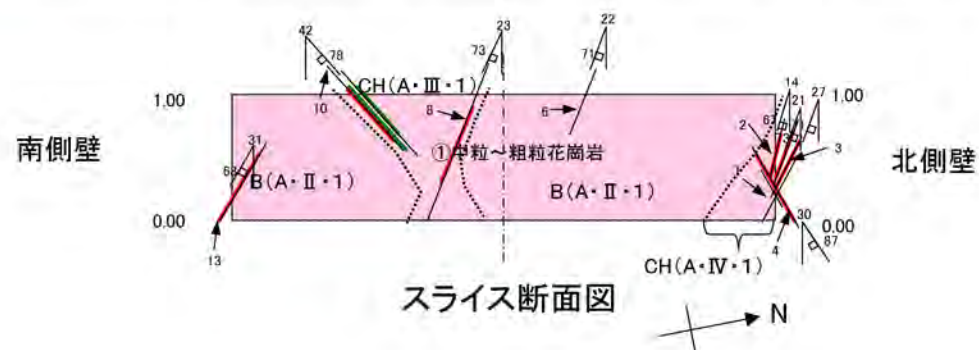
シート番号	100m計測横坑-左1	日時	平成21年2月24日 16:00~17:00	位置・深度	100m計測横坑-左1 G.L. 297.0 m~G.L. 300.2 m	観察・撮影者	
-------	-------------	----	---------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例

	花崗岩		湧水		割れ目		岩級区分境界		割れ目の走向傾斜		ゼノリス		グラウト
--	-----	--	----	--	-----	--	--------	--	----------	--	------	--	------



全体に変質の程度は弱く、花崗岩は淡桃色～淡灰色を呈す。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する硬さ。南側壁～北側壁の一部まで割れ目6、7、8、13などのNW走向高角度北傾斜の割れ目が60～80cm間隔(鏡面中央の一部で30～60cm間隔)、割れ目10、11、15などのNE走向高角度南傾斜の割れ目が60cm間隔(鏡面左側～中央の一部で30～60cm間隔)で認められる。一部に割れ目9のようなNE走向高角度北傾

全体に変質の程度は弱く、花崗岩は淡桃色～淡灰色を呈す。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する硬さ。WNW走向高角度北傾斜の割れ目1～3に平行な割れ目が6～15cm間隔で認められる。他に、NE走向高角度南傾斜の割れ目4が認められる。

スケッチ

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -297m~299m B/CH G.L. -299m~300.2m B/CH
岩相	①中粒～粗粒花崗岩(淡桃色、淡灰色)	RMR値	G.L. -297m~299m 67 G.L. -299m~300.2m 77
風化	α	岩石試料番号	M300-100AGL1-1(花崗岩)、 M300-100AGL1-2(花崗岩・グラウト)
変質	1~2	採水試料番号	無
湧水	0.2L/min		

特記事項

当箇所は100m計測横坑であり、掘進方向はN79W方向である。横坑観察は鏡面から1.0m離れた場所より目視観察を実施した。

岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒～粗粒花崗岩である。切羽全体にφ7~10mm程度までの淡桃色～淡灰色を帯びた長石が散在している。

全体に花崗岩は変質の程度が弱く、黒雲母などの有色鉱物はクロライト化せずほぼ残存している。鏡面天端付近と北側壁上部にφ5~20cmの黒色のゼノリスが認められた。

割れ目の主要な走向傾斜は、WNW走向北傾斜とNE走向南傾斜とほぼ水平な低角度である。一部にNE走向北傾斜が認められる。

北側壁にはWNW走向高角度北傾斜の割れ目1~3に平行な割れ目が6~15cm間隔で認められる。他に、NE走向高角度南傾斜の割れ目4が認められる。南側壁～北側壁の一部までには、割れ目6、7、8、13などのNW走向高角度北傾斜の割れ目が60~80cm間隔(鏡面中央の一部で30~60cm間隔)、割れ目10、11、15などのNE走向高角度南傾斜の割れ目が60cm間隔(鏡面左側～中央の一部で30~60cm間隔)で認められる。一部に割れ目9のようなNE走向高角度北傾斜の割れ目も認められる。

湧水は、北側壁の割れ目3から0.2L/min程度の量、鏡面左側の割れ目12から濡れる程度の量、割れ目14から滴水程度の量が認められた。

岩級区分は、北側壁の一部では、割れ目間隔が6~15cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることからCH(A・IV・1)級と判断した。鏡面中央～天端付近までの一部では、割れ目間隔が30~60cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることからCH(A・III・1)級と判断した。その他の切羽の大半では、割れ目間隔が概ね60~100cm程度の間隔で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることからB(A・II・1)級と判断した。

グラウトは、北側壁の割れ目1、2、3、4と、鏡面中央～左側の割れ目7、8、11、南側壁の割れ目13で赤色グラウトが厚さ最大2mm程度、天端付近の割れ目5と鏡面左側の割れ目10と15で、赤色と緑色のグラウトが厚さ最大3mm程度で、いずれも明瞭に認められた。また、南側壁の割れ目12では緑色グラウトが最大厚さ1mm程度で薄く認められた。

A工区地質記載シート

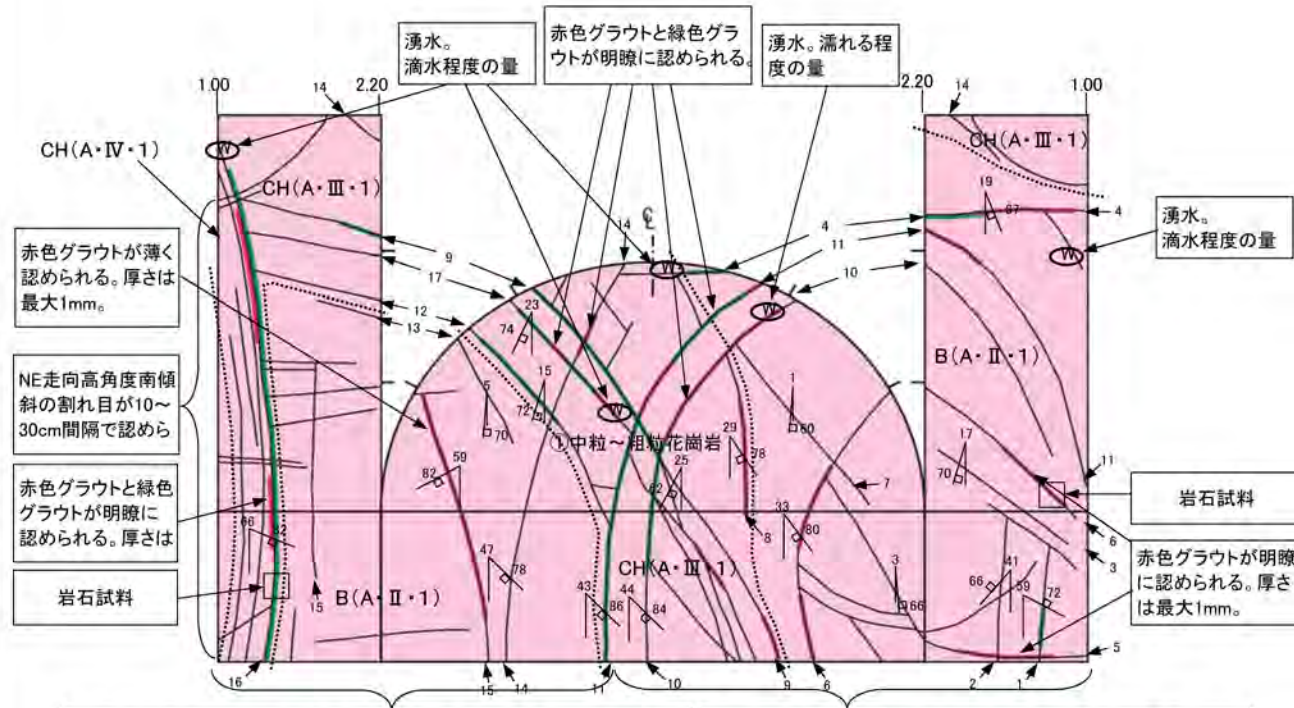
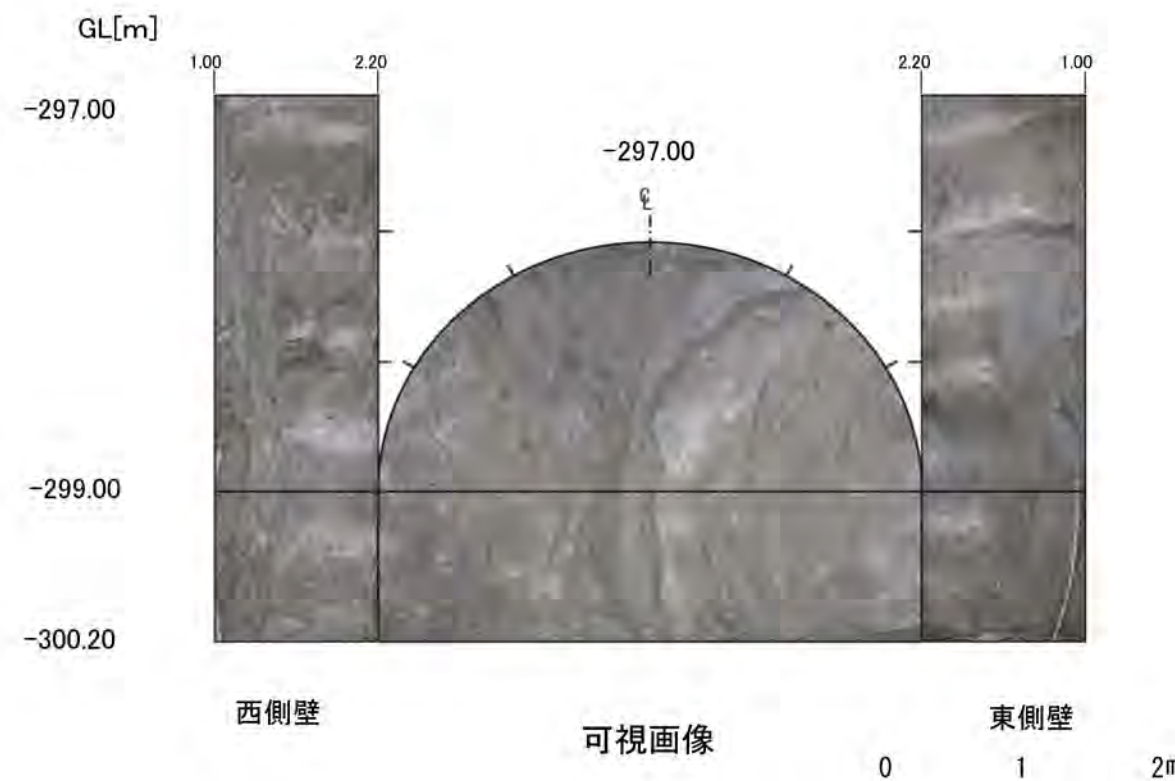
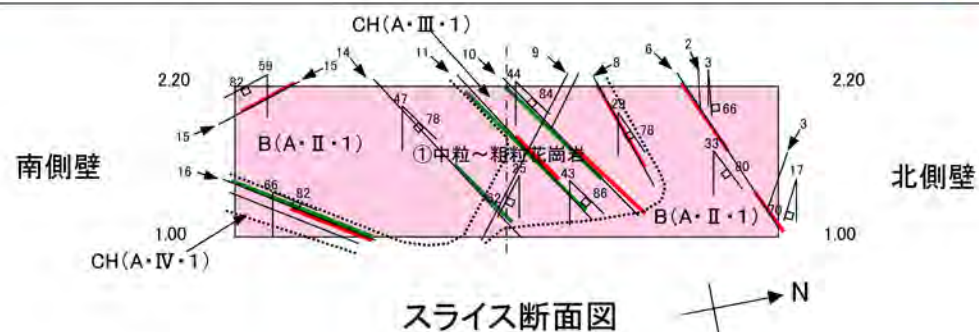
A3-請負-計測工(地質)-090226

シート番号	100m計測横坑-左2	日時	平成21年2月26日 5:00~6:00	位置・深度	100m計測横坑-左2 G.L. 297.0 m~G.L. 300.2 m	観察・撮影者	
-------	-------------	----	-------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例	花崗岩	湧水	割れ目	岩級区分境界	割れ目の走向傾斜	グラウト
----	-----	----	-----	--------	----------	------



全体に変質の程度は弱く、花崗岩は淡桃色～淡灰色を呈す。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する硬さ。南側壁～鏡面中央までNE走向高角度南傾斜の割れ目11、14、16が60～100cm間隔で、南側壁でNNE走向高角度南傾斜の割れ目16に平行な割れ目が10～30cm間隔で認められる。また、割れ目9、12、13などのNW～WNW走向高角度北傾斜の割れ目が60～80cm間隔(鏡面中央の一部で30～60cm間隔)で認められ、他にNNW高角度東傾斜の割れ目

全体に変質の程度は弱く、花崗岩は淡桃色～淡灰色を呈す。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する硬さ。鏡面中央～北側壁にかけては、NE走向高角度南傾斜の割れ目6、8、10やNW～WNW走向高角度北傾斜の割れ目3、5、7が60～80cm間隔(鏡面中央の一部で30～60cm間隔)で認められる。他に、NW走向中角度南傾斜の割れ目2、NE走向高角度北傾斜の割れ目1やENE走向中角度南傾斜の割

スケッチ

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -297m~299m B/CH G.L. -299m~300.2m B/CH
岩相	①中粒～粗粒花崗岩 (淡桃色、淡灰色)	RMR値	G.L. -297m~299m 71 G.L. -299m~300.2m 77
風化	α	岩石試料番号	M300-100AGL2-1 (花崗岩・グラウト)、 M300-100AGL2-2 (花崗岩・グラウト)
変質	1~2	採水試料番号	無
湧水	滴量程度		

特記事項

当箇所は100m計測横坑であり、掘進方向はN79W方向である。横坑観察は鏡面から1.2m離れた場所より目視観察を実施した。

岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2～7mm程度の中粒～粗粒花崗岩である。切羽全体にφ7～10mm程度までの淡桃色～淡灰色を帯びた長石が散在している。

全体に花崗岩は変質の程度が弱く、黒雲母などの有色鉱物はクロライト化せずほぼ残存している。

割れ目の主要な走向傾斜は、NE走向高角度南傾斜、NW～WNW走向高角度北傾斜とNNE走向高角度南傾斜である。一部にNW走向中角度南傾斜、NE走向高角度北傾斜、ENE走向中角度南傾斜などが認められる。

切羽全体にNE走向高角度南傾斜の割れ目6、8、10、11、14、16やNW～WNW走向高角度北傾斜の割れ目3、5、7、9、12、13が60～80cm間隔(鏡面中央～南側壁の一部で30～60cm間隔)で認められる。他に、鏡面中央～北側壁では、NW走向中角度南傾斜の割れ目2、NE走向高角度北傾斜の割れ目1やENE走向中角度南傾斜の割れ目4、鏡面左側でNNW高角度東傾斜の割れ目15などが認められる。また、南側壁の一部でNNE走向高角度南傾斜の割れ目16が10～30cm間隔で認められる。

湧水は、北側壁の割れ目4付近と鏡面中央上部の割れ目4、17、南側壁上部の割れ目16から滴水程度の量、割れ目10から濡れる程度の量が認められた。

岩級区分は、南側壁の一部では、割れ目間隔が10～30cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることからCH(A・Ⅳ・1)級と判断した。鏡面中央～天端付近までの一部では、割れ目間隔が30～60cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることからCH(A・Ⅲ・1)級と判断した。その他の切羽の大半では、割れ目間隔が概ね60～100cm程度の間隔で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることからB(A・Ⅱ・1)級と判断した。

グラウトは、北側壁～鏡面左側の割れ目1、4で緑色グラウトが、割れ目4で赤色と緑色のグラウトが、割れ目5、6、8、14で赤色グラウトが厚さ最大1mm程度明瞭に認められた。また、鏡面中央の割れ目9、10、11で赤色と緑色のグラウトが、鏡面左側の割れ目12で緑色グラウトが、鏡面左側の割れ目15で赤色グラウトが、南側壁の割れ目16で赤色と緑色のグラウトが厚さ最大2mm程度明瞭に認められた。

A工区地質記載シート

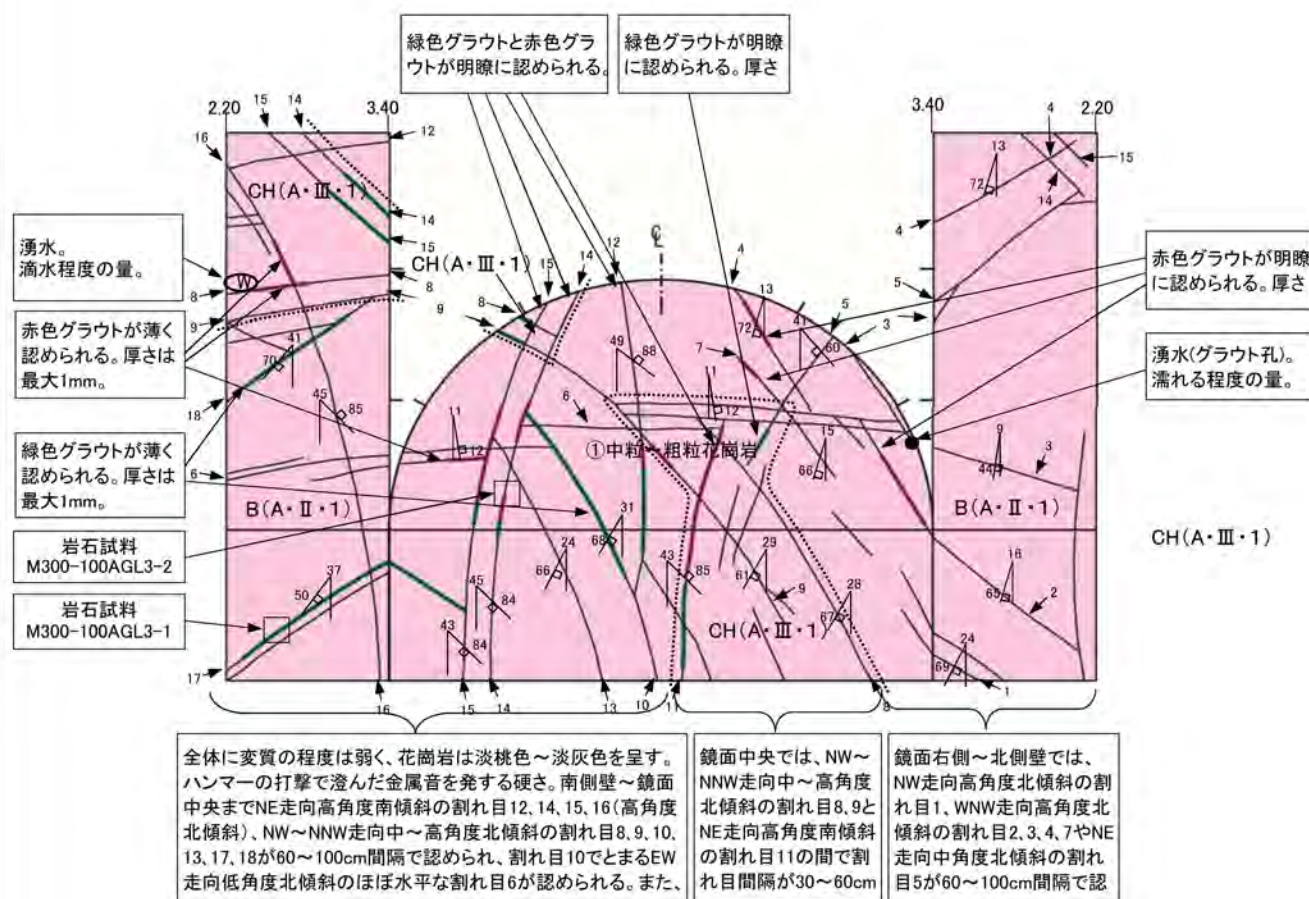
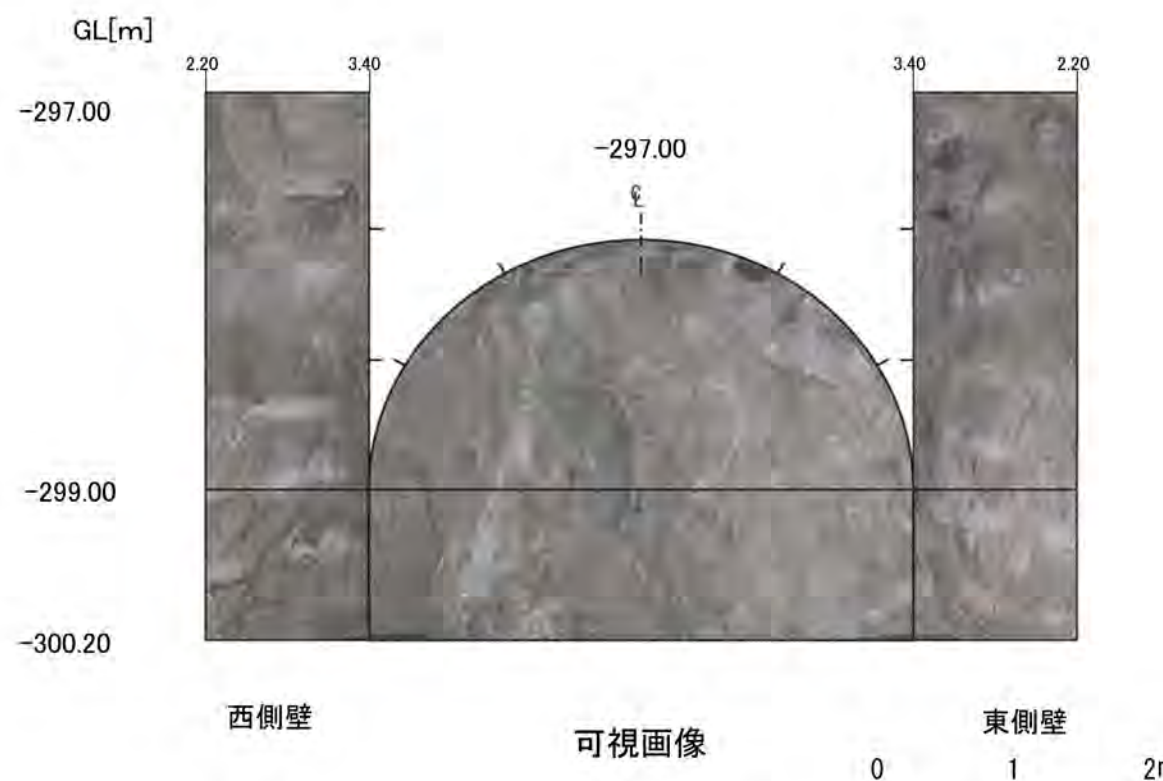
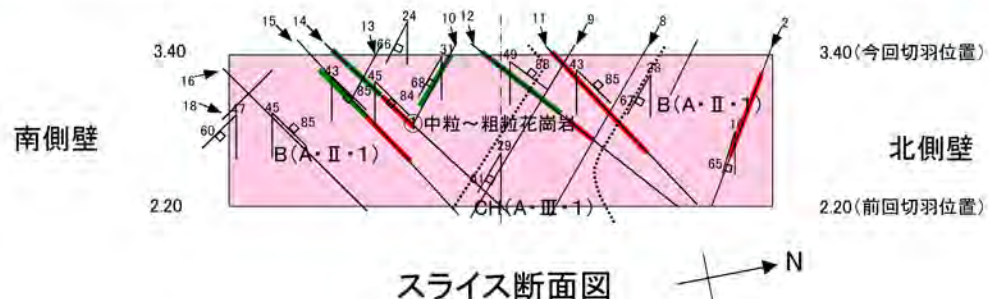
A3-請負-計測工(地質)-050225

シート番号	100m計測横坑-左3	日時	平成17年2月25日 17:00~18:30	位置・深度	100m計測横坑-左3 G.L. 297.0 m~G.L. 300.2 m	観察・撮影者	
-------	-------------	----	---------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体
現場代理人

凡例 花崗岩 湧水 割れ目 岩級区分境界 割れ目の走向傾斜 グラウト



全体に変質の程度は弱く、花崗岩は淡桃色～淡灰色を呈す。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する硬さ。南側壁～鏡面中央までNE走向高角度南傾斜の割れ目12, 14, 15, 16(高角度北傾斜)、NW～NNW走向中～高角度北傾斜の割れ目8, 9, 10, 13, 17, 18が60～100cm間隔で認められ、割れ目10でとまるEW走向低角度北傾斜のほぼ水平な割れ目6が認められる。また、鏡面中央では、NW～NNW走向中～高角度北傾斜の割れ目8, 9とNE走向高角度南傾斜の割れ目11の間で割れ目間隔が30～60cm

鏡面右側～北側壁では、NW走向高角度北傾斜の割れ目1, WNW走向高角度北傾斜の割れ目2, 3, 4, 7やNE走向中角度北傾斜の割れ目5が60～100cm間隔で認められる。

0 1 2m

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -297m~299m G.L. -299m~300.2m	B/CH B/CH
岩相	①中粒～粗粒花崗岩 (淡桃色、淡灰色)	RMR値	G.L. -297m~299m G.L. -299m~300.2m	71 77
風化	α	岩石試料番号	M300-100AGL3-1 (花崗岩・グラウト)、 M300-100AGL3-2 (花崗岩・グラウト)	
変質	1~2	採水試料番号	無	
湧水	滴水程度			

特記事項

当箇所はアクセス坑道の横坑であり、掘進方向はN79W方向である。横坑観察は鏡面から1.2m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒～粗粒花崗岩である。切羽全体にφ7~10mm程度までの淡桃色～淡灰色を帯びた長石が散在している。全体に花崗岩は変質の程度が弱く、黒雲母などの有色鉱物はクロライト化せず残存している。割れ目の主要な走向傾斜は、NE走向高角度南傾斜やNW～NNW走向中～高角度北傾斜が卓越し、他にWNW走向高角度北傾斜である。鏡面右側～北側壁にかけては、NW走向高角度北傾斜の割れ目1, WNW走向高角度北傾斜の割れ目2, 3, 4, 7やNE走向中角度北傾斜の割れ目5が60～100cm間隔で認められる。また、鏡面中央から南側壁には、NE走向高角度南傾斜の割れ目12, 14, 15, 16 (高角度北傾斜)、NW～NNW走向中～高角度北傾斜の割れ目8, 9, 10, 13, 17, 18が60～100cm間隔で認められ、鏡面正面の一部で割れ目間隔が30～60cmとなる。また、北側壁から鏡面及び南側壁にかけては、NW～NNW走向中～高角度北傾斜の割れ目9, 割れ目10でとまるEW走向低角度北傾斜のほぼ水平な割れ目6が認められる。

湧水は、鏡面左側上部の割れ目8付近から滴水程度の量が認められた。岩級区分は、鏡面左側上部及び鏡面中央の一部において割れ目間隔が30～60cm程度となり、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることからCH(A・III・1)級と判断した。その他の切羽の大半では、割れ目間隔が概ね60～100cm程度の間隔で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることからB(A・II・1)級と判断した。グラウトは、鏡面の割れ目2, 4, 7にて赤色グラウトが厚さ最大1mm程度で明瞭に認められた。また、鏡面の割れ目5にて緑色グラウトが厚さ最大1mm程度で明瞭に認められる。さらに、鏡面の割れ目9, 11, 12, 14, 15にて赤色グラウトと緑色グラウトが厚さ最大1mm程度で明瞭に認められた。割れ目16で赤色グラウトを割れ目10, 18で緑色グラウトが、割れ目8で赤色と緑色グラウトをいずれも薄く認めた。